

陸 上 自 衛 隊

独立混成
第五旅団
司令部

戰史資料

獨立混成第五旅團(東カカリン群島トラス諸島七曜島)

旅團長 陸軍少將 伊集院兼信



0334

一 編成裝備關係

1. 編成

1. 出戰時編成(第八派遣隊)

第二獨立守備隊司令部

步兵第七十三聯隊第三大隊

步兵第七十五聯隊第三大隊

步兵第七十六聯隊第三大隊

山砲第二十五聯隊第三大隊

工兵第十九聯隊第三中隊

高射砲第三十五聯隊第三大隊

(人員) 二〇四

(兵器)

AA BA GA MG LG MW 9 品
一、一、四、七

(三三) 三七四、五〇

2. 改編時編成

獨立混成第五旅團司令部 一七九

獨立步兵第三三六大隊

全 第三三七大隊

全 第三三八大隊

全 第三三九大隊

全 第三四〇大隊

全 第三四一大隊

第一砲兵隊

第二砲兵隊

高射砲隊

工兵隊

通信隊

(人員)

(二大隊宛) 五四七

三三三、二

三五四、五五七

(兵器) 照九、八、月未迄逐次增加配備
AA BA TA GA ZD LM MG LG MW 9 品
二、一、一、四、七

三四一 二五

三四三

六七〇、八

五〇

一七九

九、百、一七〇

一三八

五、五、三〇

主ナル改編事項

- (1) 歩兵大隊 (イ) 歩兵四中队ヲ三中队ニ減少
- (2) 各大隊附將校一名ヲ二名ニ増員

二、職員表 別紙

三、現地住民使役ノ關係

イ、島民(カカ族)

進駐當初ニ於テ築城作業、道路構築ニ、昭和十九年八月以降
ニ於テハ主トシテ自治耕作ニ大ニ多數ヲ使役セリ(何レモ相當額
ノ備給費ヲ支拂ヒタリ)

ロ、現地在住邦人

常備軍屬トシテ約三〇名ヲ使用、主トシテ魚撈農耕等ニ
従事セシム

二、部隊履歴ノ概要

一、昭和十九年二月二十一日 南海第八派遣隊編成下令

一、今 二十五日 今 編成完結

一、今 三月三日 南海派遣ノ為釜山港出發

一、今 二十五日 東カロリン群島トシテ諸島七曜諸島(相島會)

一、上陸全島準備

一部(高射砲大隊)ハ第五十三師團直轄トシテ四季諸島三陸全島準備

一、昭和十九年六月七日臨時編成改訂ヲ令セラレ主力ハ依然七曜島準備

一部(獨立歩兵第三三九、第三四一大隊、第二砲兵隊)ハ四季諸島秋島準備

高一部(第二砲兵隊)一中隊、工兵一小隊)ハ「モ」ト「ロ」島準備ニ任ス

一、昭和二十年八月二十五日戰鬥行動停止、終戰業務ニ従事

一、昭和二十年一月七日復員ノ為「ラ」島夏島出發、内地歸還

一、今 一月七日復員完結

三、指揮隸屬關係、其ノ變遷ノ概要

第三十一軍司令官ニ隸屬シ第五十三師團長ノ指揮ヲ受ク

變遷ナレ

四、作戰準備關係

人作戦計畫ノ概要

防禦方針

イ、上陸當初

西水道方面ニ重點ヲ指向シ各島嶼四周ニ堅固ナル陣地ヲ構築シ敵ヲ水際ニ撃滅ス

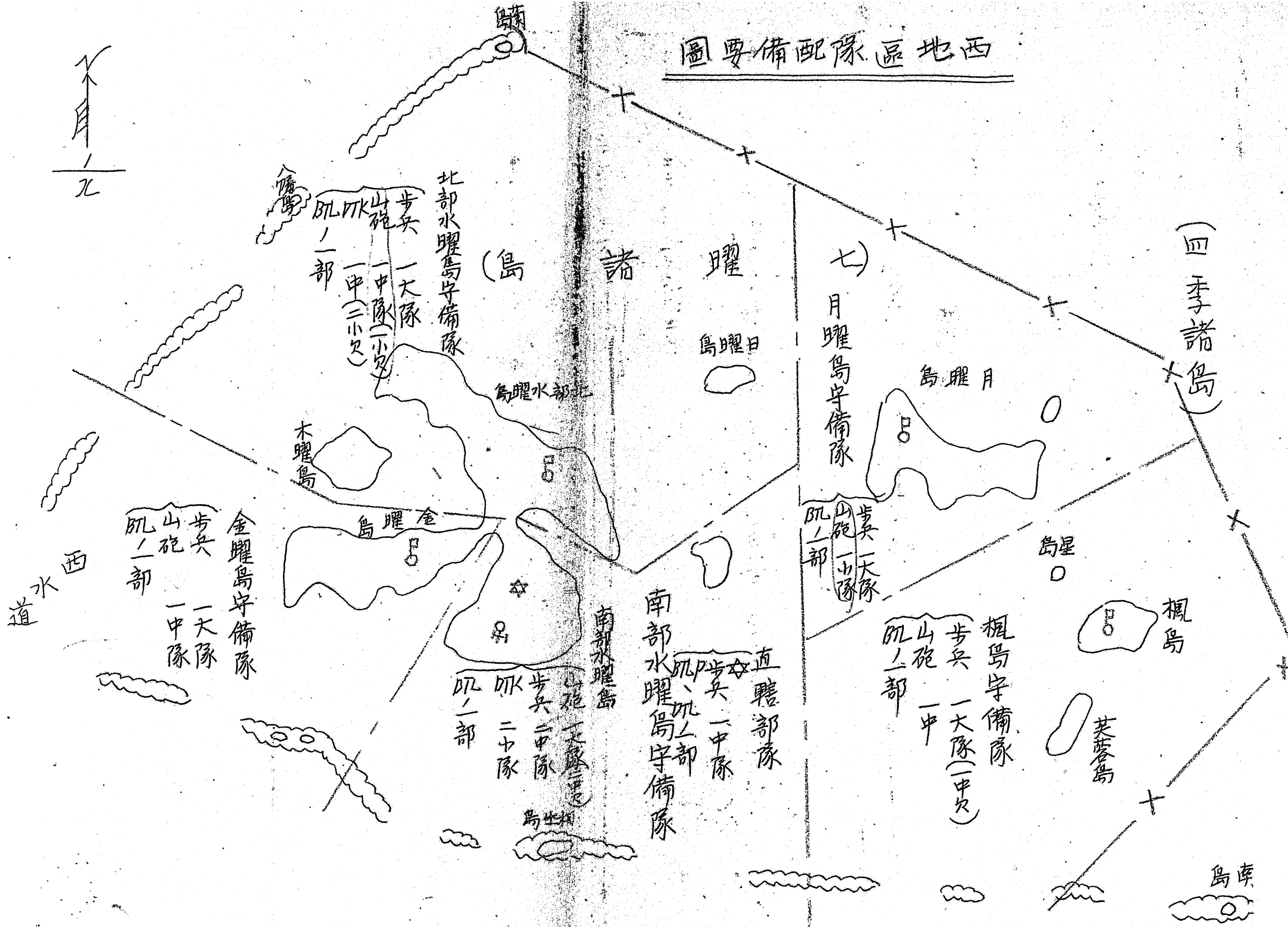
ロ、サイパン島戰鬥以降

天然ノ地形ト現地物資ヲ利用シ速カニ要塞化シ持久防禦ノ能ハ勢ヲ確立シテ對戰車戰鬥ニ徹シ敵ヲ水際ニ撃滅ス

註 防禦配備要圖附圖ノ如シ

0336

西地區隊配備要圖



0337

又、陣地ノ状況

イ、第一期 自昭和十九年三月末
至昭和二十年七月

上陸直後遭遇戰的戰鬥ヲ豫期シ先ヅ汀線部ニ現地
資材(椰子杖)ヲ利用輕掩蓋、水中(陸上)戰車防材、戰車
壕ヲ構築ス(一火砲(銃)座概ネ三十五人日ヲ要セリ
水中戰車防材構築ハ防材一杭立ニ三十六人時ダイナマイト
七二〇瓦(リーフ爆破)ヲ要セルモ、ダイナマイト水量ニ付手掘ノ
為相當ノ勞力、時間ヲ要セリ

期末ニ於テ、セメント、有刺鐵線、鐵線ノ交付ニ依リ中掩蓋
鐵條網ヲ構築セルモ資材不十分ニ付其ノ要求ヲ充スニ至ラズ
汀線部、岩塊、岩盤ヲ利用シ掩蓋ノ強度ヲ增加ス

ロ、第二期 自昭和十九年八月
至昭和二十年三月

サイパン戰、戰訓ニ基キトラク防禦戰中敵令ヲ制定
セラレ地形ノ利用ニ依ル全面的岩盤洞窟陣地ノ構築ニ

移行ス

期末ニ於テハ洞窟陣地全延長約二〇〇〇米ニ及ビ各戰
斗指揮所、通信所、主要火砲、銃器、悉ク洞窟内ニ
收容完了セリ

ハ、第三期 自昭和二十年四月
至昭和二十年七月

洞窟陣地ヲ核心トスル支點編成ノ完成並ニ秘密坑道
陣地ノ構築、對戰車障礙ノ補備増強ニ努ム
此ノ間自活態勢ノ確立並ニ資材ノ不足、特ニ爆破、障礙
施設資材ノ不足ニ依ル勞力ノ割愛ハ防禦陣地要塞化ニ
一大障礙ヲナセリ

3、軍需品ノ集積狀況

出發時携行品ハ當時所要概ネ一ヶ月分ニシテ逐次海軍庫
需部ヨリ補給ヲ受ケ五月以降概ネ統帥系統ニ基キ第
五十二師團ヨリ補給ヲ受ケタリ

歸還ニ際シテハ全部師團ニ引繼ヲ了セリ(特記諸品ナシ)
集積輸送現地自活状況

現地に到着後逐次所要量ヲ受領シテアリタルモ十九年七月末
ヲ以テ糧食平均一ロロ日分補給ヲ受ケ以後補給ハ概ネ
停止セリ、保有量ノ逐次減少スルニ從ヒ現地物資ノ利用
主トシテ(コブラ)(パパイヤ)(パン)(タロイモ)ヲ利用シ食延シ
努メ概ネ十月止規糧食ハ海軍定量ノ五割、十月四割
十二月三割、一月三割、二月三割、三月以降全量自活ニ切
リ換ヘ^ハ虫害^ハ收穫減ト關ヒ歸還ニ至ル

4. 訓練状況

築城自活ノ忙々ノ間零細ナル時間ヲ利用シ連續不斷ノ
訓練ヲ方針トシ對戰車戰鬥(肉攻斬込)射撃訓練ニ
徹シ實施ス

戰備綜合訓練、檢閲、幹部教育ヲ數回ニ亘リ實施セリ

特ニ自己ノ島ハ自己ヲ守ルノ主旨ニ基キ毎月一回(一日)

左郷軍人(海軍軍屬)一般知人約二七〇名ヲ召集シ戰備

戰技訓練ヲ實施セリ

五. 戰鬥状況

ハ參加セル主要戰鬥

第二次乃至第九次トラツク島附近ノ戰鬥

2. 機動部隊來襲状況

昭和十九年^{自四月三十日}至五月一日間米機動部隊來襲シ航空機ニ依ル
攻撃(延約八〇機)砲撃ヲ受ケ、來襲敵機ハグラマン戰鬥
機ニシテ主トシテ地上、水上ノ偽施設(偽家屋、偽機雷)等ニ對
シ反復低空射撃ヲ實施、軍需品彈藥約二十五吨損耗セ
ル外殆ト被害ナシ
潜水艦環礁外ニ近接環礁上小離島(相生島)ニ砲撃(三回)ヲ
實施ス、兵戰死一名ノ外損害ナシ

昭和二十年七月十五日英機動部隊來襲ニ際シテハ地區隊ハ
攻撃ヲ受ケス

3. 敵機ノ來襲狀況(特異ナル點)

1. 欺騙紙ヲ撒布或ハ超低空(單機)ヲ以テ電探ヲ回避來
襲ス

2. 昭和二十年五月一六月ニ在リテハ連日單機若クハ數機ヲ以テ
來襲哨戒セルモノノ如ク特ニ潜水艦ニ連繫シアリキモノノ
如ク晝間(ヨルヨロ一四〇〇)航空機、夜間(ヨルヨロ一五
〇〇頃)浮上潜水艦ヲ認メタリテ以テ判断ス。潜水艦ト分擔シ
アリタルモノノ如シ

3. 昭和二十年五月以降ニ在リテハ戰爆連合若クハ戰闘機以テ
來襲シ特ニ海上ノ小舟艇飛行基地ヲ襲撃セリ

4. 落下不時着降下者ニ對スル處置
第三土軍司令部ニ送付

ホ 敵ノ俘虜數 一名

六 給養・衛生

1. 給養

十九年七月以降主食一〇〇日分ヲ限度トシ爾後現地自活現
地物資ヲ利用シ之カ食延シ及全量自活ニ努力カシ歸還ニ
至ル

2. 衛生

1. 衛生機關

隸下部隊衛生部員及第五十二師團野戰病院一部ヲ
併而各島嶼毎ニ第一救護所ト本部救護所及水曜島
患者療養所、月曜島患者療養所及防疫給水部
ヲ開設ス

自昭和十九年四月内地還送者約一四〇名トス
至昭和二十年一月

2. 防疫

風土病名「アメーバ性赤痢、チフス性疾患、ワイル氏病」及「
シカ熱」の防遏ニ全力ヲ傾注シ旅團ハ概不良好ニ防疫成
果ヲ擧ゲ

1. 自昭和十九年三月防疫給水部ニ依リ菌検査ヲ實施シ約一五〇
至昭和二十年一月防疫給水部ニ依リ菌検査ヲ實施シ約一五〇
名ノ嚢子保有者ヲ摘出ス

3. 保育

ワイル氏病ハ各島特ニ月曜島ニ於テ多發ス(約二十名)
上陸當初ハ結核性疾患ノ防遏ニ全力ヲ傾注ス、良果ヲ擧ゲ
昭和二十年度當初ヨリ給養ノ低下現地自治ノ完成迄ハ榮養
不及患者ノ發生ノ傾向アリ各隊ノ努力ニ依リ所囑戰
争榮養失調者ハ夏島高射砲部隊ノ一部ニ發生シタルニ
テ防止ニ得タリ

4. 衛生材料

司令部材料トシテ約一五〇梱ヲ揚陸各隊ニ夫々一〇〇
宛補給ス各隊携行衛生材料ト併而使用シ概不爾後
ノ補給ナクシテ救護診療ニ支障ヲ來サス
終戦後昭和二十年十月殘留材料約七〇梱及療養所材
料七〇〇梱ヲ併而未軍ニ讓渡ス

七. 終戦ヨリ歸還迄ノ行動概要

1. 終戦業務

- 1. 米側指示ニ基キ諸調査資料調整提出
- 2. 米側視察團渉外
- 3. 兵器、被服、藥劑其他諸資材ノ集積
- 4. 淨藥、爆藥ノ處理(深海投棄)
- 5. 環境ノ整理
- 6. 島内ノ清掃

只、構築陣地障碍物ノ破壊撤収

ハ、對島民關係ノ處理(舟艇貸借物品ノ返還其他)

ニ、歸還準備

3、米側指示ニ基ク米軍進駐作業援助(約二五〇名)

4、兵器處理ノ爲獨立歩兵第三三六大隊長以下二〇〇名ヲ残置ス

5、歸還ノ爲トラウク島夏島ヲ一月七日出發

0342

31

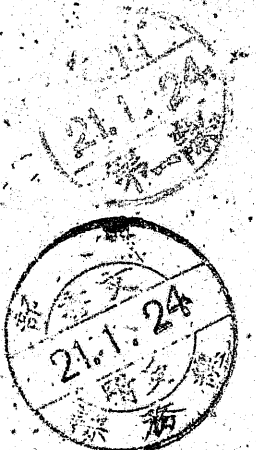
関東上陸地支局

(昭和二十一年一月七日)

史実調査参考資料報告

摘要

所在地	トリスノ島	職官	独逸五旅長 伊集院兼信	以時 モ、ヲ記ス
所屬部隊	独逸五旅	氏名	伊集院兼信	職 変更 及主ナル参 加戦年名 ヲ記ス
支那等支隊	昭和十三年二月十九日 以降ニ於テ 自己略歴	同	昭和十三年二月十九日 独逸十六隊長 新赤 同 十四年三月一日 歩三二〇隊長 同 五月至日 同 同 山東省臨清縣 同 十六年三月一日 同 第五師司令部文書大服務 同 十八年三月三日 第一獨歩長 新赤	最後所屬部隊 ヲ記ス尚 其以降所 屬部隊ノ分 ヲ記ス
所屬部隊	編成年月 日及編制	獨立獨歩第五旅團	昭和十五年六月七日 旅團司令部 旅團通信隊	高射砲 一隊 二隊 三隊 四隊 五隊 六隊 七隊 八隊 九隊 十隊 十一隊 十二隊
所屬部隊	編成年月 日及編制	獨逸五旅	昭和十九年二月一日 獨逸五旅長 伊集院兼信	獨逸五旅 一隊 二隊 三隊 四隊 五隊 六隊 七隊 八隊 九隊 十隊 十一隊 十二隊
所屬部隊	編成年月 日及編制	獨逸五旅	昭和十九年五月七日 獨逸五旅長 伊集院兼信	獨逸五旅 一隊 二隊 三隊 四隊 五隊 六隊 七隊 八隊 九隊 十隊 十一隊 十二隊
所屬部隊	編成年月 日及編制	獨逸五旅	昭和十九年五月七日 獨逸五旅長 伊集院兼信	獨逸五旅 一隊 二隊 三隊 四隊 五隊 六隊 七隊 八隊 九隊 十隊 十一隊 十二隊
所屬部隊	編成年月 日及編制	獨逸五旅	昭和十九年五月七日 獨逸五旅長 伊集院兼信	獨逸五旅 一隊 二隊 三隊 四隊 五隊 六隊 七隊 八隊 九隊 十隊 十一隊 十二隊
所屬部隊	編成年月 日及編制	獨逸五旅	昭和十九年五月七日 獨逸五旅長 伊集院兼信	獨逸五旅 一隊 二隊 三隊 四隊 五隊 六隊 七隊 八隊 九隊 十隊 十一隊 十二隊



0344

史實調査參考資料報告

所在地	トコワシ(支)	職官	佐田 新一郎 齊明 孝寛 次郎	備考 トコワシ
所屬部隊	支那軍交 以降、於此 自己經歷	支那軍交 以降、於此 自己經歷	支那軍交 以降、於此 自己經歷	職官 支那軍交 以降、於此 自己經歷
所屬部隊 縮成年月 日及縮制 裝備 概要	縮成年月 日及縮制 裝備 概要	縮成年月 日及縮制 裝備 概要	縮成年月 日及縮制 裝備 概要	縮成年月 日及縮制 裝備 概要
所屬部隊 部隊 作戰 經過 概要	所屬部隊 部隊 作戰 經過 概要	所屬部隊 部隊 作戰 經過 概要	所屬部隊 部隊 作戰 經過 概要	所屬部隊 部隊 作戰 經過 概要
終戦(不 主力戦 斗終了) 後、状況	終戦(不 主力戦 斗終了) 後、状況	終戦(不 主力戦 斗終了) 後、状況	終戦(不 主力戦 斗終了) 後、状況	終戦(不 主力戦 斗終了) 後、状況
帰郷 (支八連絡) 先	帰郷 (支八連絡) 先	帰郷 (支八連絡) 先	帰郷 (支八連絡) 先	帰郷 (支八連絡) 先

關東上陸地支局

(昭和二十一年一月七日)

史實員調査參考資料報告

橋本

所在地	ラウケ島	職官 副官 少佐 倉本 豊	終戦時 在ラウケ島
支那軍事史 以降に於て 自己略歴	昭和二十一年二月一日 同 十四年三月一日 同 十四年九月七日 同 十五年四月三日	近歩三中队隊長 歩二二步兵砲隊長 北支山東有沂洲縣警備 歩二二副官	職の変更 及主ナル終戦 以降に於て 不記ス
所屬部隊 編成年月 日次 裝備 概要	同 十七年三月一日 同 十八年三月一日 獨立混成第五旅團	同 十七年三月一日 同 十八年三月一日 獨立混成第五旅團 新米	長後所屬部隊 其後所屬部隊 不記ス
隆	歩次砲次砲工隊	昭和十九年六月七日	不記ス
所屬	昭和十九年三月一日	第八派遣隊トシテ	不記ス
部隊	トラケ島七曜島ニ上陸	第五十二師團長 若原ニ入テ防備	不記ス
終戦時概要	依然七曜島ニ在リ	昭和二十一年一月七日乗船 LST 915号ニ乗リ浦賀	帰還輸送 ノ状況ヲモ 併記ス
終戦時概要	依然七曜島ニ在リ	昭和二十一年一月七日乗船 LST 915号ニ乗リ浦賀	帰還輸送 ノ状況ヲモ 併記ス
終戦時概要	依然七曜島ニ在リ	昭和二十一年一月七日乗船 LST 915号ニ乗リ浦賀	帰還輸送 ノ状況ヲモ 併記ス
終戦時概要	依然七曜島ニ在リ	昭和二十一年一月七日乗船 LST 915号ニ乗リ浦賀	帰還輸送 ノ状況ヲモ 併記ス
終戦時概要	依然七曜島ニ在リ	昭和二十一年一月七日乗船 LST 915号ニ乗リ浦賀	帰還輸送 ノ状況ヲモ 併記ス
終戦時概要	依然七曜島ニ在リ	昭和二十一年一月七日乗船 LST 915号ニ乗リ浦賀	帰還輸送 ノ状況ヲモ 併記ス
終戦時概要	依然七曜島ニ在リ	昭和二十一年一月七日乗船 LST 915号ニ乗リ浦賀	帰還輸送 ノ状況ヲモ 併記ス
終戦時概要	依然七曜島ニ在リ	昭和二十一年一月七日乗船 LST 915号ニ乗リ浦賀	帰還輸送 ノ状況ヲモ 併記ス
終戦時概要	依然七曜島ニ在リ	昭和二十一年一月七日乗船 LST 915号ニ乗リ浦賀	帰還輸送 ノ状況ヲモ 併記ス

0346

史實調査参考資料 報告

編 号

所在地	トヲツク島 戦官	独混第五旅司令部	モノ記又
新編部隊	独立混成第五旅団 氏名	鈴木信志	職変更 及主ナル参 加戦年最 ヲ記ス
支那専攻 以降ニ於テ 自己略歴	昭和二十一年一月一日 志願支那専攻ニシテ 昭和二十一年四月六日 意軍ニ解隊 昭和二十一年五月十一日 第七十五旅団ニ移駐 現任ニ至ル 全期間中 階長トシテ奉命	昭和二十一年六月七日 独立混成第五旅団長トシテ 参謀長トシテ奉命 終戦迄 終戦人員一四名 指揮官トシテ奉命	最後所属部隊 ヲ記ス尚 其略歴ヲ所 属部隊ニ分 テ記ス
所屬部隊	昭和二十一年三月十四日 トヲツク島 戦官 同島 戦官 参謀長トシテ奉命	昭和二十一年三月十四日 独立混成第五旅団司令部 参謀長トシテ奉命	終戦後ハ 依り トヲツク島 戦官ニシテ 終戦後 依り トヲツク島 戦官ニシテ 終戦後 依り トヲツク島 戦官ニシテ
終戦後ハ 主力戦 斗終了 後ノ状況	終戦後ハ 依り トヲツク島 戦官ニシテ 終戦後 依り トヲツク島 戦官ニシテ	終戦後 依り トヲツク島 戦官ニシテ 終戦後 依り トヲツク島 戦官ニシテ	帰還運輸 状況ヲモ 併記ス
備考 (又八連隊)	東京市	[Redacted]	[Redacted]
其他 参考事項	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]

史實調査參考資料報告

報告書

所在地 トマ島七曜島

職官 陸軍大尉 高橋清信

職 変更

所屬部隊

特選混成第五旅團

氏名

高橋清信

備考

支那軍支隊
以降ニ於テ
自己略歴

昭和十六年十一月一日任陸軍少尉 歩兵第七十三聯隊
九中隊隊員 昭和十六年二月七日第三大隊右部附 同年八月
月一日大隊副官 同年九月十五日任陸軍中尉 昭和十九
年三月二十五日以降才二次才九次下之島附近戦事
昭和十九年六月七日任陸軍大尉 同年十月十五日
任陸軍大尉 林田司令官補務 同年十月十五日
任陸軍大尉 林田司令官補務 同年十月十五日

職 変更
及主ナル
戦戦事
ヲ記ス

所屬部隊

編成年月 昭和十九年六月

日及編制

以後所屬部
隊ヲ記ス尚
其以降所
屬部隊ノ分
ヲ記ス

裝備
概要

昭和十九年三月二十五日 東カリン群島トモク
島七曜島上陸 全島警備
第二次トモク島附近戦事
参加

以後所屬部
隊ヲ記ス尚
其以降所
屬部隊ノ分
ヲ記ス

所屬部隊

部隊

作戰

經過

概要

終戦(不
主力戦
斗終了)
後、状況

終戦後、第一從事
歸還ノ為、百七十四号、二条航上之島
在、三月十七日神戶港着

帰還輸送
ノ状況ヲモ
併記ス

所屬部隊

曾根



先

史官調査參考資料報告

報告書

所在地 トラップ島

職官 陸軍司令部附

終戦時

所属部隊 独立混成第五十旅團

氏名

川口長吉

モリヲ記ス

支那共産党以降ニ於テ自己略歴

独立混成第五十旅團

職官

昭和十六年七月十九日應召滿洲國新京第二獨立守備隊司令部ニ在リテ防衛任務ニ従

事 昭和十九年二月十八日南海派遣 同年六月七日 編成改正ニ依リ独立混成第五十旅團司令部附トシテ

及主ナルモリヲ記ス

前屬部隊 獨立混成第五十旅團

昭和十九年六月七日

島戰ニ參加昭和二十年八月二十日陸軍大尉至

長後ノ所屬部隊ヲ記ス

日及ニ對シテ

獨立混成第五十旅團

八月二十日陸軍大尉至

其ノ所屬部隊ヲ記ス

裝備

獨立混成第五十旅團

八月二十日陸軍大尉至

其ノ所屬部隊ヲ記ス

概要

獨立混成第五十旅團

八月二十日陸軍大尉至

其ノ所屬部隊ヲ記ス

前屬

昭和十九年三月二日釜山出發 南海派遣 同年三月二十五日トラップ島七耀島ニ上陸 第五十一師團長ノ指揮下ニ入り西地区隊トシテ七耀島ヲ防備 至リ 至現在

其ノ所屬部隊ヲ記ス

部隊

昭和十九年三月二日釜山出發 南海派遣 同年三月二十五日トラップ島七耀島ニ上陸 第五十一師團長ノ指揮下ニ入り西地区隊トシテ七耀島ヲ防備 至リ 至現在

其ノ所屬部隊ヲ記ス

作戰

昭和十九年三月二日釜山出發 南海派遣 同年三月二十五日トラップ島七耀島ニ上陸 第五十一師團長ノ指揮下ニ入り西地区隊トシテ七耀島ヲ防備 至リ 至現在

其ノ所屬部隊ヲ記ス

經過

昭和十九年三月二日釜山出發 南海派遣 同年三月二十五日トラップ島七耀島ニ上陸 第五十一師團長ノ指揮下ニ入り西地区隊トシテ七耀島ヲ防備 至リ 至現在

其ノ所屬部隊ヲ記ス

概要

昭和十九年三月二日釜山出發 南海派遣 同年三月二十五日トラップ島七耀島ニ上陸 第五十一師團長ノ指揮下ニ入り西地区隊トシテ七耀島ヲ防備 至リ 至現在

其ノ所屬部隊ヲ記ス

終戦後

依然トシテトラップ島七耀島ニ在リ 歸還途程ニ

其ノ所屬部隊ヲ記ス

主力

昭和二十一年一月七日米海軍LSTニヨリ同島出發 同月十四日浦賀上陸

併記ス

後

昭和二十一年一月七日米海軍LSTニヨリ同島出發 同月十四日浦賀上陸

併記ス

歸郷

鹿兒島縣

併記ス

先

鹿兒島縣

併記ス

其他

鹿兒島縣

併記ス

参考事項

鹿兒島縣

併記ス

関東上陸地支局

(昭和二十一年十一月)

史実調査参考資料 報告

第...号

所在地 トロツ島

職官 野口清海 中尉

所属部隊 獨逸軍一旅

氏名 野口清海

備考 記入

支那軍手交以降...
自己略歴

昭和二十一年十一月...
昭和二十一年四月...
昭和二十一年三月...
昭和二十一年十一月...

職官変更
及主...
加...
ヲ記入

所屬部隊...
昭和二十一年六月...

昭和二十一年六月...
昭和二十一年...
昭和二十一年...

昭和二十一年...
昭和二十一年...
昭和二十一年...

前属部隊...
昭和二十一年四月...
昭和二十一年...
昭和二十一年...

終戦後...
主...
斗...
後...

昭和二十一年...
昭和二十一年...
昭和二十一年...

帰郷...
(又...)

昭和二十一年...
昭和二十一年...

其...
昭和二十一年...

0350

史實調査参考資料 報告

(昭和二十一年一月一日)

第...

所在地
ドラック島

職官

旅団司令部付
陸軍主計大尉

モロ...

所属部隊
独立混成第...

氏名

國宗忠久

...

支那軍に交
以降に於て
自己の歴史

昭和十五年二月一日戦車第一隊隊員入隊同八月一日経理部幹事
任補生ヲ命ゼラル 昭和十五年一月十日経理部核中入隊同八月十日
卒業同年十一月一日陸軍主計大尉任官第十九師団司令部付
同十七年十月三十日山砲隊第三連隊隊員同十八年九月十五日
主計中尉ニ進級同十九年二月十日山砲隊第二連隊隊員同十九年九月十五日
トシテ南進隊員トシテドラック島附近ニ戦車第一隊隊員ニ加同十月二十四日
独立混成第一旅団司令部付同二十年八月二十日主計大尉ニ進級
引致ニ戦車第一隊隊員ニ加現在ニ在ル

職、変更、
及主ナルガ
故戦車第一
記ス

前編部隊
編成年月
日及編制
整備
概要

昭和十九年三月七日独立混成第一旅団司令部付
五十一旅団 龍第一砲兵隊 編成
編制) 三ノ中隊

日以後所屬部
隊ヲ記ス尚
其各隊ノ所
屬部隊ノ分
ヲ記ス

新編

昭和十九年三月二十四日ドラック島上陸
同島昇降ニ任ス

作戦
経過
概要

終戦後ハ依然トドラック島ニアリニ
終戦業務ニ任ス

帰還途程
状況ヲモ
併記ス

帰郷

東京市都

元

...

関東上陸地支局

(昭和三十一年一月一日)

史實調査參考資料報告

捕虜

所在地	トランク	職官 陸軍少中尉	以然時ノ モノヲ記入
所屬部隊	昭和十五年二月十日 工兵第八勝隊 神尾隆盛(盛)入隊 自年二月二十日 出陣 陽着(正兵) 出陣 陽着 昭和十七年七月 經理 甲種 幹候 押甲 昭和十七 年十月 陸軍 主計 少尉 任官 昭和十九年 二月 滿洲 出陣 同月 三月 トランク 島着 爾後 終戦日 トランク 島ノ 戦斗ニ 参加		
所屬部隊 編成年月 日及編制 裝備 概要	編成年月 昭和十九年六月七日 裝備 野戰用 砲 砲團 砲官隊 獨歩 三三六一 三四一大隊 工兵中隊 砲兵 大隊 二大隊 高射砲 大隊 二大隊 昭和十九年三月 南海 派遣(トランク 島 七 捕虜) 上陸 第五軍 師(團)長 指揮 下 入心 西地 隊 隊 七 捕虜 守備 任官 現在ニ 在リ 中内ニ 于 現任 務ノ 以 於 十九年 二月 セリ 編成 改 正 留 置 五 士 隊 ト 捕 虜 信 知 心 ト 三 子 ト トランク 島 七 捕 虜 ニ 在 リ タリ		
終戦(又ハ 主力戦 斗終了) 後ノ 状況	帰還 輸送 状況ヲモ 併記ス		
帰郷 (又ハ 連絡)	新潟県		
其他 備考事項			

0356

関東上陸地文局

(昭和二十一年一月十七日)

史實調査参考資料報告

第...

所在地	トコノケ島	職官	少輔改派
所屬部隊	...	氏名
支那事変以降の自己略歴	...				
所屬部隊 編成年月 日次編制 裝備 概要	...				
所屬部隊	...				
経過概要	...				
終戦主力戦後、状況	...				
帰郷(又、連絡先)	長野県				
その他	...				
帰還輸送状況、併記不	...				
最後所屬部隊、記号、所属部隊、分、記号	...				

0357

関東上陸地支局

(昭和二十一年一月七日)

史實調査參考資料報告

精進

所在地	トヲワリ島	職官	獨浪五旅日附	終戦時 モリ記ス
所属部隊	独浪五旅	氏名	鈴木光次	職 及主 加 ヲ記ス
支那軍 以降 自己 經歷	<p>支那軍に 以降 自己 經歷</p> <p>獨浪五旅 昭和十九年六月七日 旅司令部 通信隊 工兵隊</p> <p>昭和十九年三月十四日 第八旅司令部 上陸第五十一師團長 指揮下 西郷隊 七曜島 守備 任務 昭和十九年 編成 七曜島 在</p> <p>依然 七曜島 在</p>			
所屬部隊	<p>獨浪五旅 昭和十九年六月七日 旅司令部 通信隊 工兵隊</p>			
所屬部隊	<p>獨浪五旅 昭和十九年三月十四日 第八旅司令部 上陸第五十一師團長 指揮下 西郷隊 七曜島 守備 任務 昭和十九年 編成 七曜島 在</p>			
所屬部隊	<p>依然 七曜島 在</p>			
所屬部隊	<p>依然 七曜島 在</p>			
所屬部隊	<p>依然 七曜島 在</p>			
所屬部隊	<p>依然 七曜島 在</p>			
所屬部隊	<p>依然 七曜島 在</p>			
所屬部隊	<p>依然 七曜島 在</p>			
所屬部隊	<p>依然 七曜島 在</p>			

史實調査參考資料報告

捕虜

所在地	トウマツ島	陸軍司令部 陸軍司令部 年田一男	捕虜 モノヲ記ス
支隊事変	昭和十一年十月 以降ノ於テ 自己經歷	職変更 及主ナル参 ヲ記ス	
所屬部隊	編成 日及別制 裝備 概要	且隊所屬部 隊ヲ記ス尚 其以隊ノ所 屬部隊ノ分 ヲ記ス	
所屬	昭和十一年三月 一上陸ノ事ニ由リ 西地ニ隊トシテ 至現任		
部隊	中同ノ下リテ現任 七日迄ノ隊トシテ		
作戦	終戦迄ノ依然トシテ ニ記ス		
経過	終戦迄ノ依然トシテ ニ記ス		
概要	終戦迄ノ依然トシテ ニ記ス		
終戦迄ノ依然トシテ	終戦迄ノ依然トシテ ニ記ス		
終戦迄ノ依然トシテ	終戦迄ノ依然トシテ ニ記ス		
終戦迄ノ依然トシテ	終戦迄ノ依然トシテ ニ記ス		
終戦迄ノ依然トシテ	終戦迄ノ依然トシテ ニ記ス		

史實調査参考資料報告

所在地	トウラク島	戦官	陸軍部司令部付	以陸軍部	
所屬部隊	陸軍部第三旅團	氏名	舟月隆	モリノ記入	
支那事変	昭和十五年一月陸軍部第三旅團第三中隊 以降ヲ於テ 自之略歴 付同十五年十一月陸軍部司令部付同十五年 二月南海海運トウラク島守備並ニ 其、内通ノ野團ニ参加				職変更 及主ナル参 加戦年名 ヲ記ス
所屬部隊 編成年月 日及編制 裝備 概要	昭和十五年一月七日自新編成定結 独立混成第五旅團司令部付 旅團 通信隊 独立大隊 五中隊 小隊 二中大隊 五中隊 中隊 青村砲隊 一中大隊				最後所屬部 隊ヲ記ス尚 其以降ノ所 屬部隊ノ分 ヲ記ス
所屬 部隊 作戦 経過 概要	昭和十五年一月南海海運トウラク 島七曜島ニ上陸西地部隊トナリ 同地守備並ニ之ヲ				
終戦(又ハ 主力戦 斗終了) 後ノ状況	終戦時節ニ従事シテ現在ニ 至ル 陸軍部司令部付 トウラク島				帰還輸送 ノ状況ヲモ 併記ス
帰郷 (又ハ連絡) 先	三重縣				
其他 参考事項	十二				

史實調査參考資料報告

所在地	トウワウ島	職官 陸軍軍士中尉	備考 モノヲ記ス
所屬部隊	獨逸艦隊司令部	氏名 島中一惠吉	職 職、變更 及主ナル 及主ナル ヲ記ス
支那事変 以降 自己經歷	<p>昭和十一年二月五日、中支軍兵船病院要員トシテ、 今年十一月二十九日、獨逸艦隊司令部ニシテ、 二月十日、獨逸艦隊司令部ニシテ、 二月十日、獨逸艦隊司令部ニシテ、 昭和十一年二月十日、獨逸艦隊司令部ニシテ、 昭和十一年二月十日、獨逸艦隊司令部ニシテ、</p>		
所屬部隊 編成年月 月及編制 裝備 概要	<p>獨逸艦隊司令部 獨逸艦隊司令部 獨逸艦隊司令部 獨逸艦隊司令部 獨逸艦隊司令部</p>		
所屬 部隊 作戰 經過 概要	<p>昭和十一年三月、南海孤島トシテ、 二上陸中支軍兵船司令部、指揮トシテ、 二上陸中支軍兵船司令部、指揮トシテ、 二上陸中支軍兵船司令部、指揮トシテ、 二上陸中支軍兵船司令部、指揮トシテ、</p>		
終戦(又 主力戦 斗終了) 後、状況	<p>終戦後、 終戦後、 終戦後、 終戦後、</p>		
帰郷 (又連絡)	<p>東京部 [Redacted] [Redacted]</p>		
其他 参考事項	<p>ナシ</p>		

關東上陸地支局

(昭和二十一年一月五日)

史實調查參考資料 報告

摘録

所在地	職官	職名	備考
新島	佐々木 重雄	佐々木 重雄	モリノ記又
支那	佐々木 重雄	佐々木 重雄	職名変更 及主ナル参 加戦隊ノ取 ヲ記ス
所屬	佐々木 重雄	佐々木 重雄	其以隊ノ所 屬部隊ノ分 ヲ記ス
概要	佐々木 重雄	佐々木 重雄	其以隊ノ所 屬部隊ノ分 ヲ記ス
所屬	佐々木 重雄	佐々木 重雄	其以隊ノ所 屬部隊ノ分 ヲ記ス
先	佐々木 重雄	佐々木 重雄	其以隊ノ所 屬部隊ノ分 ヲ記ス
其	佐々木 重雄	佐々木 重雄	其以隊ノ所 屬部隊ノ分 ヲ記ス
其	佐々木 重雄	佐々木 重雄	其以隊ノ所 屬部隊ノ分 ヲ記ス
其	佐々木 重雄	佐々木 重雄	其以隊ノ所 屬部隊ノ分 ヲ記ス

0362